

「やまぐちデジタル改革基本方針」の 改訂案について（概要）

I	改訂のポイント	1
II	改訂案の構成	2
III	改訂案の概要	3



令和5年2月 山口県デジタル推進局

	主な内容	主な改訂のポイント
<p>【県】 やまぐち未来維新 プラン(2022年12月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県民誰もが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる「<u>安心して希望にと活気に満ちた山口県</u>」を実現 ✓ そのために、<u>デジタルを、県づくりをさらに進化させるための重要な視点の一つとして位置付け</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ デジタル社会のビジョンに県づくりの基本目標等を反映
<p>【国】 デジタル田園都市 国家構想 基本方針(2022年6月) 総合戦略(2022年12月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の個性を活かしながらデジタルの力によって地方創生の取組を加速化・深化させ、「<u>全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会</u>」を実現 ✓ この実現に向け、<u>地方のデジタル実装※を通じた社会課題解決に向けた取組の推進と、そのために必要となるデジタル基盤等の基礎条件整備を強力に実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ デジタル実装の推進や基礎条件整備など、構想が目指す方向性等を反映
<p>【県議会】 人にやさしいデジタル 社会実現特別委員会 提言 (2022年12月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 誰もがデジタルを身近に感じ、子どもから大人までが目を輝かせながら生きることのできる地域を「<u>おこし</u>」、また、地域が自ら「<u>おこる</u>」社会を、「<u>人にやさしいデジタル社会</u>」として提示 ✓ 「やまぐちデジタル改革」が県民に実感できる形で実を結ぶよう、<u>社会全体のデジタル実装に向けて取り組むことを提言</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ デジタル社会のビジョンを、「人にやさしいデジタル社会」へ ➤ 県民の実感を得られるデジタル実装を強力に推進していくことを明確化
<p>【CIO補佐官】 「CIOミーティング」 における助言・提案 (随時実施)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県民の実感を高めるためには、重厚長大な手続や多くの方が使うサービスなど、総和としてユーザー体験を変えていくことなどが重要であるなど、<u>デジタル改革の各取組に対し、具体的に助言・提案</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 取組の方向性等に助言等を反映 ➤ 助言等を職員の改革推進の視点として整理

※デジタルを活用して、調査や実証実験の段階にとどまらず、地域の課題解決、地域の魅力向上のため、住民等に対する実際の継続的なサービス提供を行うこと

II 改訂案の構成

現 行	改 訂 案	備 考
1 策定の趣旨	1 改訂の趣旨	「I 改訂のポイント」で示した内容を的確に反映するとともに、これまでの取組成果を踏まえ、取組の強化・拡充を図ることを明示
2 改革の意義	2 改革の意義	
3 対象期間	3 対象期間	「やまぐち未来維新プラン」の終期(令和8年度)と整合
4 デジタル社会のビジョンと目指すべき将来像	4 デジタル社会のビジョンと目指すべき将来像	「やまぐち未来維新プラン」の県づくりの基本目標をベースに、県議会特別委員会提言やCIO補佐官等の助言を反映
5 改革の基本姿勢	5 改革の基本姿勢	—
6 推進体制	6 推進体制	—
7 施策の3つの柱	7 施策の3つの柱	—
8 具体的な取組事項	8 取組の方向性	国「デジタル田園都市国家構想」、県議会特別委員会提言、CIO補佐官の助言等を反映、具体の取組は予算等で毎年度見直し
9 重点プロジェクトの実施	9 <u>デジタル実装事業の重点実施</u>	国「デジタル田園都市国家構想」、県議会特別委員会提言を反映し、デジタル推進局と各部局が連携した、各分野・各地域におけるデジタル実装の取組の重点的・集中的な実施に見直し
10 進行管理	10 進行管理	—
【別紙】サービス設計12箇条	【別紙】やまぐちデジタル改革推進に当たっての視点	CIO補佐官等の助言をもとに、実装に向け取組の実効性を高めるために、職員一人ひとりが意識し心得るべきポイントを整理

1 改訂の趣旨

- ✓ 「やまぐち未来維新プラン」や「デジタル田園都市国家構想」の基本方針・総合戦略、県議会「人にやさしいデジタル社会実現特別委員会」の調査報告書に基づく要請等を的確に反映するとともに、これまでの取組成果やCIO補佐官から得た知見等を踏まえ、取組内容の拡充等を図る。

2 改革の意義

- ✓ デジタルは、社会変革推進の原動力であるとともに、様々な課題を解決するための鍵となるものであり、本県の新たな未来を創っていくためにも、デジタルの力を積極的に活用し、その可能性を最大限引き出していくことが極めて重要であり、「やまぐち未来維新プラン」においても、デジタルを、県づくりをさらに進化させるための重要な視点の一つとして位置付け、プロジェクトや重要施策を構築
- ✓ 国においては、「デジタル田園都市国家構想」の下、地域の個性を活かしながらデジタルの力によって地方創生の取組を加速化・深化させ、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現を図るとし、地方のデジタル実装を通じた社会課題解決に向けた取組の推進と、実装の前提となるデジタル基盤の整備等を強力に進めるとされた
- ✓ 県議会においては、「人にやさしいデジタル社会実現特別委員会」を設置して調査研究が重ねられ、目指すべき「人にやさしいデジタル社会」の姿と、その実現に向け、県が取り組むべき事項が取りまとめられ、「やまぐちデジタル改革」が県民に実感できる形で実を結ぶよう、社会全体のデジタル実装に力を注ぐことを求めるとされた
- ✓ 本県のデジタル社会の実現に向けて、デジタル実装の流れをこれまで以上に速く、より広く拡大することが強く求められており、そのためにも、多くの県民の皆様がデジタルによって社会や暮らしが変わったと真に実感できるよう、デジタル実装に向けて、さらに重点化を図り、力強く前へと進めていかなければならない
- ✓ デジタルの力を活用した取組の更なる強化・拡充を図ることにより、本県のデジタル改革をより高いレベルへと押し上げ、産業や交流、生活など県政のあらゆる分野や各地域におけるデジタル実装を実現し、県民があまねくデジタル化の恩恵を享受し、これまでよりも豊かで安心・安全に暮らすことができる山口県の未来を創り上げていく

3 対象期間

2022(令和4)年度から
2026(令和8)年度まで5年間

※必要に応じて随時見直し

4 デジタル社会のビジョンと目指すべき将来像

県づくりの基本目標

「安心で希望と活かに満ちた山口県」の実現

ビジョン

県政のあらゆる分野、地域でデジタルが実装され、デジタルが県民の暮らしや生活の中に溶け込んだ、県民一人ひとりが、豊かさと幸せを実感することのできる、ウェルビーイング※1にあふれる、人にやさしいデジタル社会

目指すべき将来像

未来維新プランの政策の柱「3つの維新」に沿って提示

※1 身体的、精神的、社会的に満たされた状態を意味する概念

5 改革の基本姿勢

①地域の社会課題の解決

デジタル技術を活かし新たな解決策を生み出すとともに、より効果的な形で具体化し、速やかなデジタル実装を図る

②新たな価値の創造

県政の各分野において、利用者目線に立って新たな価値を創造するイノベーションを促進し、新サービスの提供等につなげる

③デジタルデバイド(情報格差)の排除

デジタル化の恩恵をあらゆる人が享受できる環境を整備し、デジタル技術に不慣れな人や利用しない人も含め、誰一人取り残されない人にやさしいデジタル社会を目指す

④多様な主体との連携・協働

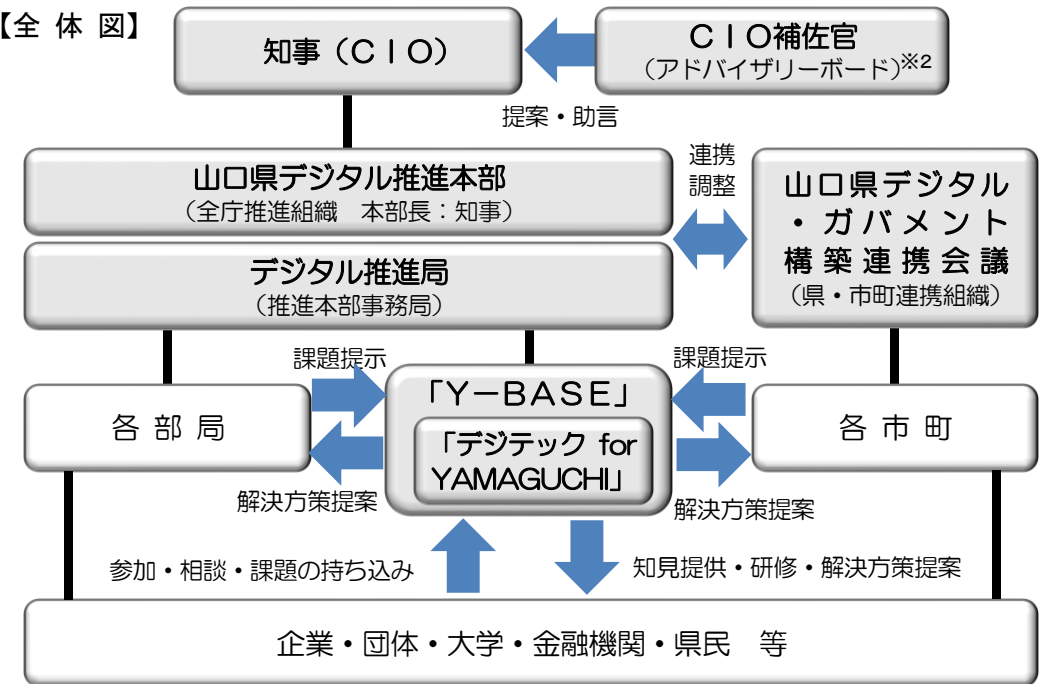
多様な主体との連携・協働体制を整え、それぞれが担うべき役割を踏まえながら、一体となってデジタル改革を進める

⑤スピード・柔軟性・持続性

的を絞った取組を、柔軟に、かつ失敗を恐れず展開するとともに、持続可能で安定的な改革の成果を追求する

6 推進体制

【全体図】



※2 企業や組織において、専門的な知見・情報を有する業界専門家、学者等から助言を得ることを目的に設置された諮問委員会等

7 施策の3つの柱

① 『やまぐちDX』の創出

県政の幅広い分野、地域におけるデジタル実装の実現に向け、「やまぐちDX推進拠点『Y-BASE』」を核として、多様な主体と連携・協働しながら、地域の社会課題の解決と新たな価値の創造を図る、本県ならではのDX※1、『やまぐちDX』の創出に取り組む。

② 『デジタル・ガバメントやまぐち』の構築

利用者の視点に立って、行政サービスの利便性向上を図るとともに、デジタルを梃子とした行政の構造改革に取り組み、市町と一体となって『デジタル・ガバメントやまぐち』の構築を進める。

③ 『デジタル・エリアやまぐち』の形成

デジタル実装のために必要な基礎条件となる、県内全域において高度な高速大容量回線の通信環境の確保等を進めるとともに、デジタル人材の確保・育成の加速や、デジタルデバイドを排除し、誰一人取り残されないデジタル化を進めることにより、暮らしの豊かさや地域の活力を実感することのできる『デジタル・エリアやまぐち』を形成していく。

※1 デジタルトランスフォーメーションの略。情報通信技術の活用により人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

※2 市民自らがICT等の新しい技術を活用して、地域の社会課題を解決しようとする考え方やその動きのこと

※3 収集したデータを分析し、意思決定や企画の立案に役立てていく方法論

※4 従前にはない技術やビジネスモデルを開発し、急成長する、創業間もない企業等のこと

※5 インターネット上に3次元の仮想空間を創り、現実世界に近い形で活動を可能にするものこと

8 取組の方向性 (主なもの)

具体的な取組は、毎年度の予算等に反映

5

① 『やまぐちDX』の創出

➤ 「Y-BASE」を核とした全県的なDXの推進

➤ 各分野・各地域におけるデジタル実装の本格展開

- ・ 県政各分野・各地域における取組を、社会実装へと着実につなげる
- ・ 産業分野はもとより、県民生活に密接に関連する健康・医療・介護、教育、防災、子ども、交通、インフラ等の準公共分野は、取組を重点的に推進
- ・ 「山口県デジタル実装推進基金」を創設・活用し、優良なデジタル実装事例の創出・横展開により面的に拡大するとともに、全国の成功事例を積極的に導入
- ・ 優れた技術やノウハウを持つ企業等と積極的に連携し、持続可能な取組となるよう、ビジネスの視点も重視して実装を推進

➤ シビックテック※2の推進

➤ データドリブン※3の推進

➤ DXに関する啓発

➤ 技術導入・DX推進に対する支援

- ・ 聴力の弱い方との意思疎通を支援する「窓口相談支援システム」等、これまでの改革の取組により創出されたモデル事例・優良事例を横展開

➤ スタートアップ※4との共創促進

- ・ デジタル実装の本格展開やシビックテックの推進、最先端技術等の利活用の促進などの取組において、スタートアップとの共創活動を積極的に推進

➤ 最先端技術の動向把握及び利活用促進

- ・ 日常生活やサービスに大きな変革をもたらす可能性があるメタバース※5等の最新技術を、各分野において積極的に利活用

②『デジタル・ガバメントやまぐち』の構築

➤ 行政手続のオンライン化

- ・オンライン手続をさらに拡大するとともに、誰もが手軽に、安心してデジタルによるサービスを利用できるよう、分かりやすく、使いやすい操作画面等の構築・改善やキャッシュレス化等を推進
- ・利用者視点の成果指標を設定し、利用者からの意見等を随時受け入れながらサービスの改善に向けた不断の取組を推進

➤ 行政手続のワンストップ化・ワンズオンリー化

- ・関連する行政手続を1箇所で完了させるワンストップ化を推進
- ・書類の提出を一度で済ますワンズオンリー化を検討

➤ アナログ規制の点検・見直し

- ・目視・実地監査規制や定期検査・点検規制、書面掲示・対面講習規制など、アナログ的な手法を前提とした規制の横断的な点検・見直しを推進

➤ 情報システムの共通化・共同化

- ・令和7年度までに共通的なシステムへの移行を目指し、対応を計画的に推進

➤ オープンデータの推進

- ・データ形式の統一化を図った上で、原則、誰もが利用できるかたちで公開
- ・市町のオープンデータ化の取組に係る支援を強化

➤ 情報セキュリティの徹底

➤ 個人情報保護の徹底及びデータ流通の円滑化

➤ AI・RPA※1の活用

➤ デジタル・ワークスタイルの推進

- ・業務効率化等の可能性を検討し、業務をデジタルを前提としたものに変革

※1 AI：人工知能、RPA：ロボットによる定型業務の自動化

③『デジタル・エリアやまぐち』の形成

➤ 情報通信インフラ整備の加速

- ・離島や過疎地域を含め、県内全域に光ファイバ網等がくまなく整備されるよう、市町との協議の場を設置し、未整備地域の状況やニーズ等を把握
- ・光ファイバのユニバーサルサービス※2制度の活用等も含め、地域に合った最適な整備方法等の検討・調整等を実施

➤ 「やまぐち情報スーパーネットワーク(YSN)」※3の利活用拡大

- ・デジタル・ガバメントの推進や、教育・医療などの幅広い分野での更なる利活用拡大を図るため、機能強化を推進

➤ マイナンバーカードの普及と利活用拡大

- ・市町と連携して、カードの機能を活用したオンライン行政サービスの充実や様々な行政サービスの提供を受けることができる「市民カード化」等を推進

➤ デジタル人材の確保

- ・行政サービスの利用しやすさ(アクセシビリティ)や利便性向上など、課題等に応じて外部人材を確保

➤ デジタル人材の育成

- ・デザイン思考※4の習得に向け、効果の高い先進的な教育プログラム「やまぐちデザインシンキングカレッジ」を開催し、履修者による新サービス創出等を支援
- ・各組織のDXを牽引するリーダー的人材を育成
- ・企業におけるIT技術のリスキング(新スキルの学習・獲得)を支援

➤ デジタルデバインド対策の推進

- ・誰一人取り残されないデジタル社会の形成に向けて、市町による地域におけるデジタル活用能力の向上やデジタル活用の促進を図るための取組等を実施するなど、きめ細かな対策を推進

※2 社会全体で均一に維持され、誰もが等しく受益できる公共的なサービスのこと

※3 県が整備した、高速大容量の光ファイバによる全県的な通信基盤のこと

※4 利用者の立場を考慮した調査・分析から得られる本質的なニーズに基づき、サービス・業務を試行錯誤しながら設計・開発する思考法

9 デジタル実装事業の重点実施

- ✓ より多くの県民等がデジタル化の効果を実感できるよう、デジタル実装を加速する「山口県デジタル実装推進基金」を創設
- ✓ 県政各分野・各地域におけるデジタル実装事業を重点的・集中的に実施
- ✓ 毎年度の予算編成を通じて、基金を活用した実装事業を構築
- ✓ 企画から実施に至る段階において、デジタル推進局と各部局が連携を図り、デジタル実装を着実に進め、成果の横展開を目指す
- ✓ 具体的なデジタル実装事業の構築に当たっては、県民実感の最大化を図る

《デジタル実装事業構築に当たって留意すべき点》

※CIO補佐官等からの助言を踏まえて設定

- ◆ 多くの人が利用するデジタルサービスを提供する
- ◆ ひとりの人が頻繁に利用するデジタルサービスを提供する
- ◆ 分かりにくく面倒で時間がかかる手続等をデジタルサービス化する
- ◆ デジタル実装への興味・関心を喚起する画期的なデジタルサービスを提供する

10 進行管理

「山口県デジタル推進本部」での審議等を踏まえながら「やまぐち未来維新プラン」や「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」等と一体的に進行管理

参考指標（「やまぐち未来維新プラン」に記載）

取り組む項目	KPI（5年後：2026年）
① Y-BASEを核としたデジタル実装による地域課題の解決	Y-BASEにおける課題解決件数 +約500件(100件/年)
② 利便性が高く安心・安全な行政サービスの提供	県関係手続のオンライン利用率 50%超
③ 情報通信インフラ整備の加速	光ファイバの世帯カバー率 100%、5G人口カバー率 90%超
④ デジタル技術を活用できるリーダー人材の育成・確保	デジタル技術を活用できるリーダ人材の育成 +約500人(100人/年)

(別紙) やまぐちデジタル改革推進に当たっての視点

取組をより効果的なものとし、社会に実装される実効性の高いものとするため、職員一人ひとりが意識し心得るべきポイントを、CIO補佐官等の助言をもとにとりまとめ

トランス
フォーメーション

視点⑤
ビジョン&県民実感向上で
改革を実現する

- ✓ 北極星(ノーススター)を定め、関係者を巻き込みながら、同じ方向に進んでいく
- ✓ 途中経過を確認するための測りやすい指標(KPI)を持つとともに、どのような最終的な効果を目指すのか、最終的な目標を設定
- ✓ DXの最終目的はトランスフォーメーション。一段視点を上げて(メタレベルで)業務を組み替えていくことが必要
- ✓ 県民の体感が重要。自然と人に伝えたいユーザー体験を実現する

アジャイル

視点②
課題起点&デザイン
思考で考える

- ✓ デジタルは手段に過ぎない。課題解決のためにデジタルを使う
- ✓ 重要なのは課題発見力
- ✓ 利用者の課題を起点に、デザイン思考で考える
- ✓ 解像度の高いユーザー像(ペルソナ)を設定する

3つのF※
FAST,FAIR,FUN

視点①
未来志向&クリエイティブな思考態度を持つ

- ✓ 行政として最低条件(FAST,FAIR)をクリアしつつ、ワクワクする未来を創り出す(FUN)が重要
- ✓ 今までできなかった課題に取り組むには、未来志向でカジュアル・クリエイティブになっていくことが必要

視点③
小さく挑戦&クイック
ウィンで成果を出す

- ✓ 失敗を恐れず挑戦。枠を作り過ぎずに、小さく始める。まずやってみることが重要
- ✓ ちょうど良いサイズの課題を見つけて短期的にうまくいった事例(クイックウィン)を作り、成果を目に見える形にする
- ✓ 無理にデジタルを使わない。人間に合わせて設計する

視点④
効果測定&フィード
バックで改善する

- ✓ リリース前にユーザーテストを行うだけで改善点はたくさん出てくる
- ✓ リリース日がDAY1でスタート。そこからユーザーの声をできるだけ取り入れて改善していく。ループを速く回す
- ✓ 勝利条件を定め、数値を測定できる仕組みを組み込み、見える化を図る

※ 3つのF：台湾のデジタル担当大臣（デジタル発展部（省）長）のオードリー・タン氏が、新しいアイデアを社会全体に広げるための3つの柱としている「FAST（速さ）」、「FAIR（公平さ）」、「FUN（楽しさ）」